

北海道猛禽類研究会

第 22 回勉強会

プログラム

■ 日時 ■

令和 4 年 11 月 2 日 (水)
13:30～17:00 (開場 13:00)

■ 場所 ■

札幌市教育文化会館 4 階 講堂

応用生態工学会・札幌
北海道猛禽類研究会・実行委員会

■はじめに

近年、希少猛禽類の保護については、研究者や自然保護団体だけではなく、広く一般にも関心がもたれるようになっていきます。一方、北海道の猛禽類について、これまでに公表されている論文・調査報告書は少なく、具体的な保全対策を立てるための基礎資料が乏しいのが現状です。そこで、このような問題点を解消するために、各事業者から猛禽類に関する情報を、事業名や位置情報を伏せた形で提供していただき、それをもとに事業者、調査従事者、研究者が、猛禽類の生態を明らかにし、保全対策を検討する勉強会をこれまでに21回開催してきました。

■プログラム

■【日 時】

令和4年11月2日(水) 13:30~18:00

■【講演内容】

第一部 (13:30~15:30)

- (1) 「海ワシ類のバードストライク防止策の手引き 改定版」について
環境省自然環境局野生生物課、株式会社建設技術研究所 紀國 聡
- (2) 北海道十勝地方におけるオジロワシの繁殖状況
帯広畜産大学大学院 畜産学研究科 畜産科学専攻 高橋 麗美
- (3) 釧路外環状道路における天然記念物オジロワシの保全対策について
～産学官連携による調査及び保全対策の実施～
北海道開発局 釧路開発建設部 道路設計管理官付 及川 秀一

～休憩 (10分) ～

第二部 (15:40~17:50)

- (4) 地震による地表攪乱が希少鳥類の繁殖状況に及ぼす中期的な影響
—ダム建設事業における繁殖モニタリング調査結果からの考察—
パブリックコンサルタント株式会社 保科 賢司
- (5) センサーカメラを用いた巢内観察で把握した北海道におけるクマタカの繁殖生態の紹介
株式会社地域環境計画・北海道クマタカ研究グループ 松岡 和樹
- (6) シマフクロウの調査方法や解釈の実例、保護対策の基本的な考え方(仮)
シマフクロウ環境研究会 竹中 健

閉会の挨拶 (17:50~18:00)

■【場 所】

札幌市教育文化会館 4階 講堂 (会場定員 156名)
北海道札幌市中央区北1条西13丁目

■ 北海道猛禽類研究会について

1. 設立経緯

北海道に生息する猛禽類について、各種事業で具体的な保全対策を検討するための基礎資料の収集の場とすることを目的に、事業者、調査従事者、研究者で平成 10 年に北海道猛禽類研究会を設立しました。これまで、各種事業に関わる調査等から得られた猛禽類の生態情報や具体的な保全事例の報告、猛禽類研究者の研究成果の紹介等を行い、北海道における猛禽類に関する情報交換の場として勉強会を開催してきました。その後、平成 23 年には北海道猛禽類研究会を応用生態工学会札幌の下部組織として、運営方法を改めて活動しており、勉強会開催の他、猛禽類の対象種ごとの調査手法を検討するワーキングの開催、事業者に対しての猛禽類調査結果に関するアンケートの実施、これらの成果をとりまとめた、「北海道の猛禽類」の出版等による外部発信にも取り組んでいます。

2. 主な活動内容

1) 勉強会の開催

- ・北海道に生息する猛禽類の生態、分布状況、調査手法を明らかにするとともに、保全に係る事例の情報交換の場として年に 1 回（通常秋季）開催。

2) 調査手法検討ワーキングの運営

- ・希少猛禽類の対象種ごとに、事業に係る調査の調査手法について検討。これまで、オオタカ、クマタカ、オジロワシ、チュウヒ、ハヤブサについて調査指針をとりまとめ、2020 版を出版。

3) 猛禽類情報の収集・管理

- ・事業者を対象に実施してきたアンケートの収集及び管理方法等の検討、収集先機関との協議を実施
- ・猛禽類の繁殖・巣に関する情報収集及びデータ整理
- ・「北海道の猛禽類」の改訂及び更新版として 2020 版を出版

3. 勉強会の開催状況

回	開催年月日	会場	発表 テーマ数	参加者数	運営主体	見学会
1	H10. 9. 29～30	ハイランドふらの	資料なし	資料なし	DEC	滝里ダム建設現場
2	H11. 12. 6～7	天塩川温泉	資料なし	資料なし	WEC	音威子府 BP 予定地
3	H13. 2. 19	かでの 2・7	5	資料なし	WEC	見学会なし
4	H13. 10. 29～30	トウ登山学校レイク・イン	4	資料なし	WEC	美蔓ダム予定地
5	H16. 9. 30～10. 1	留萌開発建設部	6	69名	実行委員会	留萌ダム建設現場
6	H17. 10. 17～18	岩内地方文化センター	7	100名	実行委員会	泊発電所建設現場等
7	H18. 10. 16～17	苫小牧市民会館	8	172名	実行委員会	平取ダム予定地
8	H19. 10. 13	札幌市教育文化会館	10	157名	実行委員会	見学会なし
9	H20. 11. 4	札幌エルプラザホール	8	225名	実行委員会	
10	H21. 11. 9	札幌エルプラザホール	6	262名	実行委員会	
11	H23. 11. 14	札幌エルプラザホール	7	229名	学会下部組織	
12	H24. 11. 9	札幌エルプラザホール	9	207名	学会下部組織	
13	H25. 11. 15	札幌エルプラザホール	11	189名	学会下部組織	
14	H26. 11. 10	札幌エルプラザホール	8	202名	学会下部組織	
15	H27. 11. 27	札幌エルプラザホール	11	200名	学会下部組織	
16	H28. 11. 11	札幌エルプラザホール	9	192名	学会下部組織	
17	H29. 11. 17	札幌エルプラザホール	8	220名	学会下部組織	
18	H30. 11. 2	札幌エルプラザホール	7	211名	学会下部組織	
19	R1. 11. 22	北海道大学 学術交流会館	6	218名	学会下部組織	
20	R2. 9. 25	かでの 2・7	3	53名	学会下部組織	
21	R3. 11. 26	北海道大学 学術交流会館	5	127名	学会下部組織	

4. 勉強会の発表内容（実行委員会の運営による第5回以降を掲載）

回	構成及び発表テーマ	発表者
5	1. 留萌ダムでの事例報告 2. 夕張スーパーダムにおける GIS を用いた木材営巣環境解析事例報告 3. 情報の共有化にむけて 4. 猛禽類の営巣環境-クマタカ、オオタカ、ハイタカ、ハチクマ- 5. 研究者からの最近の研究報告 1) オオタカの行動圏と狩場環境 2) シマフクロウ-自然下での繁殖生態と人間活動の影響回避について-	留萌ダム建設事業所 (株)ドーコン (有)北海道生物地理 北海道猛禽類研究会 森林総合研究所 シマフクロウ環境研究会 亀井 尚 山下 茂明 中森 達 藤巻 裕蔵 工藤 琢磨 竹中 健
6	第1部 事業における事例紹介及び情報の共有化について 1. 泊発電所におけるモニタリング調査（ミサゴ）結果について 2. 後志幹線における猛禽類調査と保全対策事例について 3. オオタカとダム建設事業の共生 4. 一般国道 336 号急崖斜面鳥類保全対策検討 5. 藤巻 DB 検索システムの構築とその利用について 第2部 最近の研究報告 6. 北海道におけるミサゴの営巣環境 7. 猛禽類の生息地評価における GIS データの一元化とその応用事例	北電総合設計(株) 北電総合設計(株) 留萌ダム建設事業所 浦河道路事務所 EnVision EnVision 佐藤 真人 佐藤 真人 亀井 尚 美馬 大樹 中森 達、田中 克佳 佐々木 晶子 鈴木 透
7	第1部 北海道に生息する猛禽類の繁殖行動について 1. 北海道におけるハヤブサの生態と保護の現状について 2. ハクマ <i>Pernis apivorus</i> の繁殖行動と保全に向けた調査について 3. 北海道におけるクマタカの繁殖分布と繁殖生態 第2部 個別事業における事例報告 4. 岩見沢大橋上流オオタカ調査 5. クマタカ幼鳥ラジオテレメトリー調査結果について 6. 猛禽類の生息環境分析-後志地方のハチクマについて- 第3部 北海道猛禽類研究会の取り組み 7. 各事業者からのアンケート結果の報告 8. オオタカ調査手法の検討・中間報告	ハヤブサ研究グループ エデュエンス・フィールド・プロダクション エデュエンス・フィールド・プロダクション 岩見沢河川事務所 留萌ダム建設事業所 北電総合設計(株) 北海道猛禽類研究会 北海道猛禽類研究会 WG 米川 洋 酒井 智丈 北村 尚士 庄司 忠史 亀井 尚 佐藤 真人 藤巻 裕蔵 瀧本 育克
8	第1部 事業者の保全対策事例の報告 1. 留萌ダムにおける希少猛禽類保全の取り組み 2. 築造後 36 年経過したダム湖におけるハヤブサの繁殖について 3. 帯広広尾自動車道におけるハイタカ対応 第2部 調査研究事例の報告 4. 育雛期のオオタカの行動圏および採餌環境 5. クマタカの生態と影響予測の考え方 6. シマフクロウと各種事業のバッティング 第3部 北海道猛禽類研究会の取り組み、報告 7. 各事業者からのアンケート結果の報告 8. 猛禽類調査手法の検討について（第2版） 第4部 行政機関での検討事例 9. 北海道森林管理局の希少猛禽類に関する通達について 10. オオワシ・オジロワシの保護増殖事業について	留萌ダム建設事業所 豊平川ダム統管理事務所 帯広道路事務所 (有)ごす企画 WEC 嘱託研究員((株)いであ) シマフクロウ環境研究会 北海道猛禽類研究会 北海道猛禽類研究会 調査検討 WG 北海道森林管理局 環境省釧路自然環境事務所 伊藤 昌弘 牧野 寛 佐々木 一靖 安部 文子 田悟 和巳 竹中 健 藤巻 裕蔵 瀧本 育克 鈴木 正勝 小野 浩治

回	構成及び発表テーマ	発表者	
9	<p>第1部 研究者による調査研究事例の報告</p> <ol style="list-style-type: none"> シマフクロウの生態について 北海道十勝地方におけるオオタカとハイタカの営巣環境 礼文島におけるサンバの標識と観察記録から <p>第2部 事業による調査検討事例</p> <ol style="list-style-type: none"> 工事期間中から供用後までのマカハに関する一連調査について ラジオテレメトリー調査によるクマタカ行動圏の解明 チュウヒの繁殖生態について CCDカメラとコンデーション等によるマカハの保全対策事例 <p>第3部 北海道猛禽類研究会の取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> アンケート結果の報告及び一般鳥類の調査時期の基本 	<p>シマフクロウ環境研究会 帯広畜産大学 (株)野生生物総合研究所</p> <p>留萌開発事務所 留萌ダム建設事業所 北電総合設計(株) (株)建設技術研究所</p> <p>北海道猛禽類研究会</p>	<p>竹中 健 平井 克亥 富川 徹</p> <p>餌取 貴之 伊藤 昌弘 一北 民郎 野口 将之</p> <p>藤巻 裕蔵</p>
10	<p>第1部</p> <ol style="list-style-type: none"> 北海道におけるオジロシ・マカハの保全の方向性 これまでの調査からわかってきたクマタカの生態 猛禽類保護に関する最近の情報 <p>第2部</p> <ol style="list-style-type: none"> 北海道開発局における猛禽類対応について シマフクロウの保全対策の取り組み 猛禽類調査手法の検討について 各事業者からのアンケート結果の概要とレッドデータブックの見直しプロセス 	<p>東京農業大学 いであ(株) 東北地域環境計画研究会</p> <p>北海道開発局 シマフクロウ環境研究会 北海道猛禽類研究会 北海道猛禽類研究会 代表</p>	<p>白木 彩子 田悟 和巳 由井 正敏</p> <p>坂井 一浩 竹中 健 瀧本 育克 藤巻 裕蔵</p>
11	<p>第1部</p> <ol style="list-style-type: none"> 北海道における大型猛禽類の事故とその対策 ～人為的傷病発生メカニズムと環境治療～ 北海道におけるオジロシの遺伝的多様性と遺伝構造 道央地域における繁殖期などのチュウヒ基礎情報 <p>第2部</p> <ol style="list-style-type: none"> 猛禽類の森林施業に対する反応 -クマタカの森林施業に対する耐性/ハイタカ属の猛禽類は育成天然林施業地を狩場としない- 工事期間中における猛禽類に対する保全対策 オジロシ・チュウヒの調査手法の検討 (北海道猛禽類研究会調査手法検討WGの取り組み紹介) 北海道猛禽類研究会の活動経過とリニューアル 	<p>猛禽類医学研究所代表・獣医師 齋藤 慶輔</p> <p>東京農業大学 生物産業学部 北海道猛禽類研究会・北電総合設計(株) 一北 民郎</p> <p>森林総合研究所北海道支所・森林生物研究グループ 帯広開発建設部 足寄道路事務所 北海道猛禽類研究会調査手法検討WG・ (株)開発工営社 北海道猛禽類研究会・(株)ドーコン</p> <p>工藤 琢磨 高橋 元樹 鈴木 貴志 三浦 和郎</p>	
12	<p>第1部 事業における調査事例 事業者等による調査事例の報告 ～道路事業における猛禽類調査それぞれの立場から～</p> <ol style="list-style-type: none"> (事業者)工事を進めるために猛禽類にどうやって配慮するか? (鷹匠)工事中の猛禽類の馴化について (調査者)猛禽類に配慮した調査手法について (コンサル)調査により得られたデータをどう有効に活用するか? (研究者)北海道ホツ海側におけるチュウヒの営巣地及び巣の一例 <p>第2部 研究者の発表、北海道猛禽類研究会からの活動報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 長期サンプリングの重要性(シマフクロウ) 「風力発電施設による鳥類への影響」 (とくにオジロシの風車衝突事故の現状について) 猛禽類調査手法の検討・中間報告 猛禽類アンケートの経緯と意義 	<p>稚内開発建設部 (有)ごす企画 環境省 希少野生動植物保存推進員 日本野鳥の会オホーツク支部 北海道猛禽類研究会・(株)ドーコン環境保全部 北海道猛禽類研究会・北電総合設計(株)</p> <p>高田 正広 中嶋 友彦 川崎 康弘 工藤 晃央 一北 民郎</p> <p>シマフクロウ環境研究会 東京農業大学生物産業学部 (株)開発工営社 環境部 北海道猛禽類研究会調査手法検討WG 北海道猛禽類研究会 代表</p> <p>竹中 健 白木 彩子 鈴木 貴志 藤巻 裕蔵</p>	

回	構成及び発表テーマ	発表者
13	<p>第1部 研究者の発表</p> <p>1. 十勝平野のノスリ、オオタカ、ハイタカの営巣分布と密度、3種間での古巣の利用</p> <p>2. 北海道におけるチュウヒの集団ねぐら ～ねぐら環境と利用時期、ねぐら入り時刻～</p> <p>3. オジロワシ調査の現状と課題</p> <p>4. シマフクロウに関する保全対策事例</p> <p>第2部 テーマ発表・事業における調査事例</p> <p>5. 道路事業におけるハイタカの対応について</p> <p>6. ダム事業におけるクマタカ保全のとりくみ(仮)</p> <p>7～9. 河川事業におけるオジロワシを例にした情報共有 ～研究者・事業者・コンサルタントの立場から～</p> <p>10. 観察圧と猛禽類の動きについて</p>	<p>帯広畜産大学野生動物管理学研究 平井 克亥</p> <p>北海道大学農学院森林生態系管理 先崎 理之</p> <p>環境省 希少野生動植物保存推進員 日本野鳥の会オホーツク支部 川崎 康弘</p> <p>シマフクロウ環境研究会 竹中 健</p> <p>旭川開発建設部土別道路事務所計画課 中津 稔・高野 眞司・根廻 康弘</p> <p>留萌開発建設部 留萌開発事務所 留萌ダム管理支所 鈴木 史郎</p> <p>事業者：留萌開発建設部治水課 竹ヶ原 一郎 コンサルタント：(株)ドーコン環境保全部 山田 芳樹</p> <p>研究者：北海道大学中川研究林 奥田 篤志 道央鳥類調査グループ 先崎 啓究</p>
14	<p>第1部 テーマ発表(シマフクロウに関する話題提供)</p> <p>1. シマフクロウGPSロガー個体の行動と環境利用</p> <p>2. シマフクロウの生息適地解析・将来の分布予測とその応用</p> <p>3. 国有林治山ダム位置データとその応用事例</p> <p>第2部 研究者の調査事例・事業における調査事例</p> <p>4. 十勝平野におけるハイタカの繁殖生態：産卵数およびひな数</p> <p>5. オオタカ<i>Accipiter gentilis</i>の鳴き声調査の有効性について</p> <p>6. 天塩川河川整備事業におけるオジロワシ保全措置</p> <p>第3部 北海道猛禽類研究会の取り組み及び総合討論</p> <p>7. 北海道猛禽類研究会の取り組みについて</p> <p>8. クマゲラの生物学について</p>	<p>シマフクロウ環境研究会 竹中 健</p> <p>北海道大学農学院 森林生態系管理学 吉井 千晶</p> <p>(有)北海道生物地理 中森 達</p> <p>帯広畜産大学野生動物管理学研究室 平井 克亥・柳川 久</p> <p>(株)地域環境計画 北海道支社 生物多様性推進室 松岡 和樹</p> <p>名寄河川事務所 大串正紀・村上泰啓</p> <p>北海道猛禽類研究会 (株)ドーコン 工藤 晃央</p> <p>北電総合設計(株) 一北 民郎</p> <p>北海道猛禽類研究会代表 藤巻 裕蔵</p>
15	<p>■猛禽類に関する話題提供</p> <p>1. 自動撮影カメラを用いたオオタカの繁殖経過観察事例</p> <p>2. クマタカの観察に対する反応のご紹介と調査手法についての考察</p> <p>3. コンサル担当者が考えている猛禽類調査で取り扱うべき正しいデータとは</p> <p>4. 石狩平野におけるチュウヒの動向とお願い</p> <p>5. ラジオテレメトリーによるクマタカ<i>Nisaetus nipalensis</i>の行動圏解析</p> <p>6. 北海道北部オホーツク海側における環境配慮の取り組み ーオジロワシのロードキル対策ー</p> <p>■北海道猛禽類研究会の取り組みの紹介</p> <p>7. 「北海道の猛禽類」及びハヤブサ調査指針案について</p> <p>8. 猛禽類アンケートについて</p> <p>■一般鳥類に関する話題提供</p> <p>9. 草原性鳥類の生態 ～どんな鳥が減っているか？～</p> <p>10. 渡り鳥中継地と飛翔高度の調査手法の検討</p> <p>11. 北海道におけるマガンの分布と移動経路</p>	<p>(株)地域環境計画 松岡 和樹</p> <p>鳥類調査員 先崎 愛子</p> <p>(株)環境総合テクノス 和田 信雄</p> <p>道央鳥類調査グループ 先崎 啓究</p> <p>エデュエンス・フィールド・プロダクション 米川 洋・酒井 智丈</p> <p>稚内開発建設部 浜頓別道路事務所計画課 古市 直人・村田 俊一</p> <p>北海道猛禽類研究会幹事・(株)ドーコン 山口 珠輝</p> <p>FRSコーポレーション(株) 今井 剛</p> <p>北海道立総合研究機構 玉田 克巳</p> <p>宮島沼水鳥・湿地センター 牛山 克巳</p>

回	構成及び発表テーマ	発表者
16	<p>第1部</p> <p>1. 北海道におけるクマタカ <i>Nisaetus nipalensis</i> の繁殖生態に関する研究結果～その1 営巣環境トスの形態・食痕～</p> <p>2. 十勝平野におけるオオタカの繁殖状況について ー営巣数、営巣頻度、繁殖成績ー</p> <p>3. 北海道横断自動車道(音別～阿寒間)における猛禽類保全対策</p> <p>第2部</p> <p>4. 風力発電における鳥類衝突・回避率の現状と課題解決のための3次元カメラ手法について</p> <p>5. 環境アセスメントにおける生態系の定量的な影響予測</p> <p>第3部</p> <p>6. 環境アセスメントにおける審査のポイント (特に上位性や猛禽類について)</p> <p>7. ハヤブサ調査指針案について</p> <p>8. 猛禽類アンケートについて</p> <p>9. オオジギの基礎生態</p>	<p>(株)地域環境計画 北海道支社 嘉藤 慎謙</p> <p>北海道ラプターコンサベーション 平井 克亥</p> <p>釧路開発建設部 道路計画課 鎌田 将慶</p> <p>(財)電力中央研究所 環境科学研究所 竹内 亨</p> <p>(財)電力中央研究所 環境科学研究所 松木 吏弓</p> <p>北海道地方環境事務所 環境対策課 河原 淳</p> <p>北海道猛禽類研究会幹事・(株)ドーコン 山口 珠輝</p> <p>北海道猛禽類研究会 アンケート担当 北海道猛禽類研究会代表 藤巻 裕蔵</p>
17	<p>第1部</p> <p>1. オジロワシの営巣分布・四世紀半の変化</p> <p>2. 北海道におけるオジロワシの繁殖成功率とその時空間的変動について</p> <p>3. 帯広尾自動車道(中札内大樹道路)整備における希少猛禽類への影響評価</p> <p>4. シマフクロウ剥製を用いた普及啓発活動の展開(対事業関係者)</p> <p>第2部</p> <p>5. サシバはなぜ北海道では繁殖しないのか?</p> <p>6. 北海道レッドリスト【鳥類編】2017改訂について①</p> <p>北海道レッドリスト【鳥類編】2017改訂について②</p> <p>7. オオタカの国内希少野生動植物の指定解除と解除後の保全対策</p> <p>8. 北海道の猛禽類2017発行にむけて</p>	<p>東京農業大学 白木 彩子 (株)長大 玉田 祐介</p> <p>帯広開発建設部 帯広道路事務所 計画課 宮葉 斗夢・青沼 裕泰</p> <p>シマフクロウ環境研究会 竹中 健</p> <p>北海道地方環境事務所 野生生物課</p> <p>岩手大学農学部 東 淳樹</p> <p>北海道環境生活部 環境局 生物多様性保全課 高田 一貴</p> <p>北海道立総合研究機構 玉田 克巳</p> <p>北海道猛禽類研究会代表 藤巻 裕蔵</p> <p>北海道猛禽類研究会 アンケート担当</p>
18	<p>第1部</p> <p>1. 道路防災事業においてチュウヒの馴化から得られた知見</p> <p>2. 北村遊水地事業における事業地周辺で営巣するオジロワシの馴化について</p> <p>3. 自動撮影カメラを用いた樹上営巣性猛禽類の巣内観察方法～わかったこと・わかっていないこと～</p> <p>4. 事業以外の原因による繁殖失敗例</p> <p>第2部</p> <p>5. 洋上風力発電が海鳥に及ぼす影響:GPSデータロガーを用いた検証</p> <p>6. ミサゴが内陸部で増加しているのはなぜか?ーダム・外来魚との関係性ー</p> <p>7. 北海道の猛禽類の編集について</p>	<p>(株)ドーコン環境保全部 土門 優介</p> <p>北海道開発局 札幌開発建設部 岩見沢河川事務所 菅野 裕也</p> <p>(株)地域環境計画 嘉藤 慎謙・松岡 和樹</p> <p>北海道猛禽類研究会 代表 藤巻 裕蔵</p> <p>北海道大学水産科学院 風間 健太郎</p> <p>岩手大学大学院 榎原 貴之</p> <p>北海道猛禽類研究会 幹事</p>

回	構成及び発表テーマ	発表者
19	<p>第1部</p> <p>1. センサーカメラでわかったハイタカの繁殖生態</p> <p>2. 都市部に生息するオオタカ個体群の繁殖に関する研究</p> <p>3. 北海道開発局における近年の希少猛禽類の保全対策 ～各事業の保全対策状況と傾向、及び道路供用後のオオタカ に対する影響評価について～</p> <p>第2部</p> <p>4. 石狩のチュウヒの繁殖状況</p> <p>5. 北海道におけるチュウヒの調査手法と繁殖分布</p> <p>6. 北海道の猛禽類の編集について</p> <p>第3部</p> <p>7. パネルディスカッション 北海道猛禽類研究会の20年 わかったことわからなかったこと ～今後の北海道の猛禽類の調査、保全計画、環境整備の課題 について～</p>	<p>北海道ラプターコンサベーション 平井 克亥 横浜国立大学 夏川 遼生 北海道開発局 開発監理部 開発連携推進課 村田 陽子・北海道開発局 網走開発建設部北 見道路事務所 計画課 堀田 靖文</p> <p>道央鳥類調査グループ 先崎 啓究 エデュエンス・フィールド・プロダクション 米川 洋・和賀 大地 北海道猛禽類研究会 幹事 一北 民郎</p> <p>パネラー： 北海道猛禽類研究会代表 藤巻 裕蔵 北海道開発局 開発連携推進課 貴家 尚哉 シマフクロウ環境研究会 竹中 健 日本野鳥の会オホーツク支部長 川崎 康弘 北海道大学地球環境科学研究院 先崎 理之 北海道猛禽類研究会 事務局 工藤 晃央(ドーコン) 進行：北海道猛禽類研究会 幹事 瀧本 育克(建設環境研究所)</p>
20	<p>1. 勇払原野における過去10年のチュウヒの繁殖状況と保全上の 課題</p> <p>2. 舞鶴遊水地にタンチョウが戻ってきたー舞鶴遊水地の環境整 備について</p> <p>3. 札幌で見られる猛禽類について</p>	<p>北海道大学地球環境科学研究院 先崎 理之</p> <p>北海道開発局 千歳川河川事務所 中村 一貴</p> <p>『さっぽろ野鳥観察手帖』 著者 河井 大輔</p>
21	<p>1. 将来に繋ぐオジロワシの繁殖モニタリング</p> <p>2. 河川の維持管理に伴う希少猛禽類の保全対策について ～江別河川事務所の事例～</p> <p>3. 1850年から2021年までの石狩平野の土地利用と鳥類群集の 変化</p> <p>4. 本州沿岸域におけるオオミズナギドリのセンシティブティマ ップ</p> <p>5. 「北海道の猛禽類 2020」について</p>	<p>東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス 白木 彩子</p> <p>北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所 計画課 中村 文哉 北海道大学 農学院 環境資源学専攻 生態系 管理学研究室 北沢 宗大 新潟大学 農学部 関島 恒夫</p> <p>北海道猛禽類研究会 事務局 工藤 晃央(ドーコン)</p>

■メモ

【北海道猛禽類研究会 運営メンバー】

■会長

藤巻裕蔵（帯広畜産大学名誉教授）

■事務局

工藤晃央（ドーコン）

■幹事

天野 拓郎(日本工営)、石原 英昭(北海道電力)、石山 浩一(森林環境リアライズ)、一北 民郎(北電総合設計)、大坪 二郎(いであ)、紀國 聡(建設技術研究所)、小林 功(パシフィックコンサルタンツ)、瀧本 育克(建設環境研究所)、玉田 克巳(北海道環境科学研究センター)、玉田 祐介(長大)、土屋 尚(ユリーカ北海道)、徳永 尚起(建設環境研究所)、野表 結(北海道技術コンサルタント)、平井 克亥(北海道ラプターコンサベーション)、山田 芳樹(ドーコン)、山口 珠輝(ドーコン)

■オブザーバー

北海道開発局 開発監理部 開発連携推進課